

司

本日の学び：「力を合わせて働く」 テキスト：第一コリント3章1-9節

【理解の手がかりとして】

前回の学び「概論」でおさえたように、このコリント書をパウロが記した動機と経緯は、一言で言えば、コリントの教会内の様々な問題を指摘し解決するためであった。そしてその問題の一つは、前回の学びの「分派争い」である。これが本日の箇所の背景にある。

4 節に「ある人が『わたしはパウロにつく』と言い、他の人が『わたしはアポロに』などと言っているとすれば」(3:4) とあるが、ここに問題の一つである「分派争い」が分かりやすく示されている。

前回学んだように、アポロはコリント教会の発展にとって大切な役割を果たした人で、パウロが「植え」、つまり教会のはじめを担ったとすれば、アポロは「水を注いだ」、つまりその教会の成長を助けた人であった。そのように教会の成長にとって、具体的な指導者の関与はとても大きな影響がある。その功績は疑う余地がない。

けれども、教会にとって大切なのは、「神のために」(3:9) という方向である。残念ながら、コリント教会の人たちはその方向ではなく、自分の好みによって生きており、自分の好みの指導者を担ぎ、そのために派閥が出来、互いに争い合っていたのであった。

そんな中でパウロは言う。「大切なのは、植える者でも水を注ぐ者でもなく、成長させてくださる神です」(3:7) と。「神様に目を向けなさい！あなたがたを育ててくれるのは神様です。神様のために働きなさい。あなたがたは神様が耕し実らせてくださる畑、神様が建ててくださる建物なのですよ！」と。

これが本日の箇所の要点であるが、もう少しパウロの信仰を掘り下げてみよう。

パウロは、「自然の人」(2:14) と「霊の人」(2:15) という言い分け方で、人間性の変革の必要を説く。本日の箇所では、その「自然の人」を「肉の人」と言い換えている。「肉」というのは、「神的」と対比する「人間的」なことを指す言葉である。一方「神的」なことが「霊的」と言われる。

パウロはコリントの教会の人々が、信仰的な段階では「乳飲み子(未熟な状態)」のような者だと指摘する。「党派心・争い・分裂に明け暮れるあなたたちは、『肉の人』『ただの人』だ！」と叱責する。

感心するのは、パウロがここで自分自身を相対化して、「アポロとは何者か。また、パウロとは何者か」(3:5) と言っている点である。争いの仲介に入る人は多い。しかしその時、助言者である自らの存在を相対化出来る人は少ない。誰しも自分に向かう好意を疎ましく思う者はいない。しかしパウロはここでそれをなす。

パウロは、単なる人間にすぎない指導者たちをほめそやす本質的な愚かさを指摘する。畑で、ある者は種を蒔き、またある者は水を注ぐ。が、そのいずれも「成長させるのは自分だ！」と言うことはでき

ない。成長させる力は神のみに属するものだからである。

人間には多くのことが出来る。しかし生命を創造したことはない。種をまく者と水を注ぐ者とは対等であって、一方が他方よりも上位にあるということとはできない。両者とも、ひとりのご主人——神——のために一緒に働く僕（しもべ）にすぎないのである。

それぞれの人間は、その一つの部分を担う存在にすぎない。——いや、むしろ高価な存在である。パウロはここで、自分たち指導者の影響力を相対化させながら、同時に、コリントの教会一人一人の存在の意義を強調している。「あなたがたは神の畑、神の建物なのです」（3:9）と。「神の」という神への属性を強調しながら。

こうして、教会の問題点を決して薄めることなくきちんと指摘し、更に建設的に助言ができるパウロの姿勢に学ぶことは、このコリント書を学ぶことの価値の一つである。

さて、この箇所ではパウロは植物にたとえながら、「成長」のプロセスを語る。「成長」あるいは「成熟」ということを考えるとき、そしてそれを「信仰の成長（成熟）」としてあてはめるとき、私たちは一体どのような状態を「成長（成熟）」にとらえ、一方「未熟」ととらえるだろうか。そのイメージを語り合ってみても良いだろう。

『聖書教育』より

- 「信仰の事柄において、自分にとって気持ちの良い、都合の良い言葉だけを口の中で転がし続け、思考停止してしまっていたのではないのでしょうか」（聖書の学び～まだまだ「肉の人」？）
- 「信仰の事柄において語られる『乳』『固い食物』（3:2）とは具体的にどのようなものだとイメージできるのでしょうか。『乳』が相応しい場面、『固い食物』が相応しい場面として、私たちの共同体ではどのような場面が考えられるのでしょうか。」（大人クラス）

【報告・祈りの課題】

1. 世界平和、一日も早い戦争状況の終息、停戦、終戦のために。地震の被災者のために。
2. 新年度の一人ひとりの働き、学びが守られるように。

3. 教会設備（礼拝のための器）が守られるように。～空調システム更新工事計画のために。雨漏りへの対処のために。
4. 教会墓園拡張計画が祝されるように（申し込み期限4月末）。
5. 座間伝道所の新年度の歩みのために～内藤牧師の健康のために。
6. 4/14（主）CS、主日礼拝〈相模原・会堂（宣教:吉田牧師）〉、東日本大震災を覚える日、CSリーダー・音楽奉仕者任命式、CSリーダー会、生活支援無料バザー
7. その他（個々人の祈りの課題）

--